

BIBFRAMEレコードとテンプレートの作成と編集

Almaでは、BIBFRAMEレコードは作品またはインスタンスのいずれかを表します。各タイプのレコードには、独自の目的と必要な情報があります。以下は、各タイプを正常に作成するのに役立つ一般的なヒントとガイダンスです。

テンプレートの作成および管理、レコードアクション（作品およびインスタンス）の編集、作品の削除、インスタンスの削除を行うには、以下のいずれかの役割が必要です：

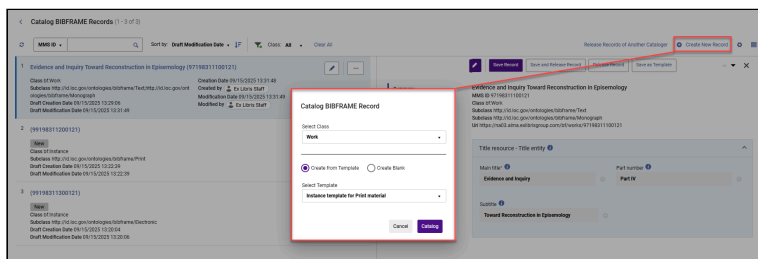
- 目録編集者
- 目録管理者

BIBFRAMEモデルの詳細な説明については、[BIBFRAME モデルの概要を参照](#)してください。

新規レポートの作成

新しい作品またはインスタンスを作成する方法：

1. リソース > 目録 > **BIBFRAMEレコードの目録作成**を選択します。
2. 新しいレコードの作成を選択します。



3. クラス 作品またはインスタンスを選択してください。
4. レコードの目録を作成する際に、テンプレートから作成するか、空白のフォームから作成するかを選択します。
 1. テンプレートを選択すると、選択したクラスに関連するテンプレートのリストが生成されます（サブクラスはテンプレート内で既に設定されています）。目?を選択すると、目録作成テンプレートフォームが開きます。
 2. 空白を選択すると、選択できるサブクラスのリストが生成されます。目?を選択すると、目録作成フォームが開きます。

作品の作成

作品とは、リソースの物理的な形態ではなく、リソースの概念的な本質を表します。

新しい作品を作成するには、作品のタイプ（例：単行書、シリーズ刊行物）を定義するサブクラスを選択してください。テンプレートから新しい作品を作成する場合、サブクラスを選択する必要はありません。これはテンプレートの構造で既に設定されています。その後、必要に応じて、フィールドやセクションを追加したり、編集したりできます。

タイトルセクションは必須です。これは、プロパティbf:titleとクラスbf:Titleを使用し、フィールド

bf:mainTitleを含みます。このセクションは、すべてのAlmaデフォルトテンプレートに自動的に含まれます。また、新しい作品レコードやテンプレートを一から作成する際にも自動的に追加されます。

タイトルセクションにフィールドを追加したり、リソースの説明に必要な追加セクションやフィールドを含めたりすることができます。

- 次のような基本情報を入力します：
 - タイトル
 - 件名
 - 場所
 - ジャンル
 - 言語
 - [分類]
 - 寄稿者（これは **主要寄稿** と **寄稿** の2つのセクションに分かれています。両者ともプロパティ bf:contributionを使用しますが、それらはbf:PrimaryContributionとbf:Contributionの異なるクラスに関連付けられています）。

タイトルセクションを削除して置き換えを行わない場合、作品レコードを保存できません。

インスタンスの作成

インスタンスとは、印刷された書籍、電子書籍、マイクロフォームなど、作品の特定の物理的またはデジタル的な表現を意味します。

インスタンスレコードを作成するには、サブクラスを**選択**して、インスタンスのタイプを定義します（例：印刷物、電子媒体、マイクロフォーム、二次インスタンス）。テンプレートから新しい作品を作成する場合、サブクラスを**選択**する必要はありません。これはテンプレートの構造で既に設定されています。必要に応じてフィールドまたはセクションを追加および編集できます。

タイトルセクション（プロパティbf:title とクラスbf:Titleを持ち、フィールドbf:mainTitleを含む）と、インスタンスフィールド（インスタンスをAlma内の既存の作品にリンクする）は、各インスタンスに必須の2つの要素です。これらの必須要素はすべてのAlmaテンプレートに含まれており、新しいインスタンスレコードやテンプレートを一から作成する際に自動的に追加されます。タイトルセクションまたはインスタンスフィールドのいずれかを削除した場合、インスタンスレコードを保存することはできません。

フィールドやセクションを追加してレコードをカスタマイズできます。

- 次のような基本情報を追加します：
 - 出版社の詳細（場所および発行日）
 - 物理的特徴（印刷形式の場合）
 - ID
 - メディアタイプ
 - 版に関する記述

BIBFRAMEレコードの編集

BIBFRAMEの作品またはインスタンスを作成および保存したら、次の2つのオプションからいずれかを選択して作業を続

行します：

- LODエディタ（リンクトオープンデータエディタ）で直接編集を続行する。
- 永続検索を通じて後でレコードにアクセスする：
 - 作品は **作品検索** に表示されます。
 - インスタンスは **すべてのタイトル検索** に表示されます。

各BIBFRAMEエンティティにはレコード編集アクションがあります。レコードの編集を選択すると、レコードがフォームエディタで開きます。ここから**変更**を加え、**レコードを保存**を選択すると、すぐにレコードが更新されます。

変更を加えて、後で続行したい場合は、**下書きを保存**を選択してください。レコードの作業コピーは、LODエディタ内で下書きとして保存され、後でリソースメニューからアクセスできます。

下書きはレコードを**保存**を選択した際に完全に機能するレコードとなります。

詳細については、Alma LODエディタでの[レコードの管理](#)を参照してください。

Note

BIBFRAMEレコードの検索およびインデックス作成に関するドキュメントは、インデックス作成ドキュメントの一部として閲覧可能です。プロセスを効率化するため、インデックス化された情報は、MARC21へのオンザフライ変換に基づいてBIBFRAMEから抽出されます。詳細については、[BIBFRAME検索インデックス](#) および [作品検索](#) を参照してください。

エディタ内や永続検索内でレコードを編集している間、テンプレートとして**保存**を選択すると、レコードの構造を新しいテンプレートとして保存できます。特定のレコードの値を含めるか含めないかは**選択**できます。

この編集機能は、Almaにインポートされたレコードにも対応しています。LODエディタは、**BIBFRAME** または **BFLC** オントロジーで定義されたあらゆる要素の編集に使用できます。

Note

すべての**タイトル検索**では、レコードの**編集**アクションがすべてのメタデータ形式で共有されます。ただし、BIBFRAMEインスタンスを編集する場合、このアクションによりメタデータエディター（MDE）ではなく、LODエディターが開きます。

Almaでインポートされたレコードに加えられた**変更**は、Alm内でのみ保存され、表示されます。エンティティの元のURI（通常は外部エディタで作成される）は、依然としてデータの元のバージョンにリゾルブします。Almaは、OWL:sameAs属性を使用してAlmaバージョンへのリンクを維持しているため、Alma URIが使用されると、Almaに保存されている更新バージョンにリゾルブします。

テンプレートの作成

AlmaのLODエディタテンプレートは、一般的なレコードタイプ向けに再利用できる構造を提供することで、**目録作成**プロセスを効率化できるように設計されています。

ワークフローに応じて、主に次の方法でテンプレートを作成できます：

- LODエディタ内のレコードからテンプレートを作成する（リソース > **目録作成** > **BIBFRAME目録レコード**）
- テンプレート **管理ページ** からテンプレートを作成する（リソース > **目録作成** > **BIBFRAMEテンプレートの管理**）

レコードからテンプレートを作成する

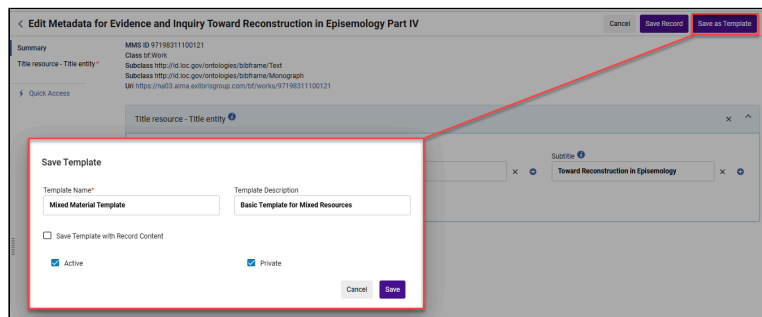
レコードの作成または編集時に、レコードをテンプレートとして保存できます。レコードコンテンツを含めるか含めないかは選択できます。これは、適切に構造化されたレコードを、将来的な目録作成に向けて再利用できるスタートポイントに変える簡単な方法です。

レコードをテンプレートとして保存する方法：

- レコードから、テンプレートとして保存を選択します。テンプレートの保存ウィンドウが表示されます。

テンプレートオプションとして保存します

フィールド	デフォルト値	説明
レコードコンテンツを含むテンプレートを保存する	未チェック	レコードコンテンツと共にテンプレートを保存が選択されている場合、入力したコンテンツの値もテンプレートに含まれます。
有効	チェック済み	<ul style="list-style-type: none"> テンプレートから新しいレコードを作成する際に、有効なテンプレートのみがリストとして表示されます。 管理リストでは、すべてのテンプレートに「有効／非アクティブ」が表示されます。 トグルの位置を変更するか、一括アクションを使用すれば、テンプレートを1回限りのアクションとして手動で変更できます。 非アクティブなテンプレートは、有効なテンプレートとして複製、削除、編集できます。 テンプレートが公開の場合、作成者または目録管理者は、そのテンプレートを非アクティブ化／有効化するように設定できます。 テンプレートが非公開の場合、作成者のみが非アクティブ化／有効化を設定できます。 設定不要ですぐに使えるテンプレートは、目録管理者のみが非アクティブ化／有効化できます。
非公開	チェック済み	<ul style="list-style-type: none"> 非公開としてマークされたテンプレートは、所有ユーザーおよび目録管理権を持つ目録管理者が閲覧、管理、削除できます。 設定不要ですぐに使えるテンプレートはハードコードで公開として設定されており、編集できません。



テンプレートを保存する

- 保存を選択すると、編集したレコードから取得したクラス、サブクラス、フィールドを含む新しいテンプレートが保存されます。

Note

テンプレートは、テンプレート管理ページ（リソース > 目録作成 > **BIBFRAME**テンプレートの管理）で管理および編集できます。

テンプレート管理ページからテンプレートを作成する

テンプレートを管理したり、作成したりするには、リソース > 目録 > **BIBFRAME**テンプレートの管理を選択してください。その後、次のことができます：

- Almaが提供するデフォルトテンプレートを表示します（[Almaデフォルトテンプレート](#)を参照）。
- 新規テンプレートを追加を選択して、独自のテンプレートを作成します。
- 既存のテンプレートを編集する。
- 既存のテンプレートを複製する。
- 既存のテンプレートを削除する。

各テンプレートには、デフォルトの名前が自動的に割り当てられます。これは編集することができます。また、他のユーザーに対しテンプレートの目的を明確にするために、説明を追加することもできます。

BIBFRAMEテンプレート管理ページからテンプレートを作成するワークフローは、レコードを作成する場合と同じです。テンプレート用にクラスとサブクラスを選択する必要があります。その後、必要に応じてセクションとフィールドを追加できます。

テンプレートが作成された後は、クラスとサブクラスを変更することはできません。別のクラスやサブクラスが必要な場合は、代わりに新しいテンプレートを作成してください。

Note

レコード作成ワークフローからテンプレートを選択し、変更後に再度テンプレートとして保存を選択した場合、Almaは既存のテンプレートを上書きせず、新しいテンプレートを作成します。

Almaのデフォルトテンプレート

Almaは、エディタの一部として、作品レコードおよびインスタンスレコード（単行書およびシリーズ刊行物を含む）用の組み込みテンプレートを提供しています。

次はデフォルトのテンプレートです：

- 読み取り専用 – 編集することはできません。
- 新しいレコードを作成する時に使用できます。
- 複製可能 – これらをコピーして、独自のカスタマイズされたテンプレートを作成できます。
- デフォルトテンプレートであることを識別するためにAlmaラベルが付いています。

以下は、Almaのデフォルトテンプレートのリストです：

- Alma - 作品：単行書：テキスト
- Alma - 作品：シリーズ：テキスト
- Alma - インスタンス：印刷物（単行書）
- Alma - インスタンス：印刷物（シリーズ刊行物）
- Alma - インスタンス：電子版（単行書）
- Alma - インスタンス：電子版（シリーズ刊行物）

テンプレートの一括アクション

テンプレートは一括で有効化／非アクティブ化／削除できます。

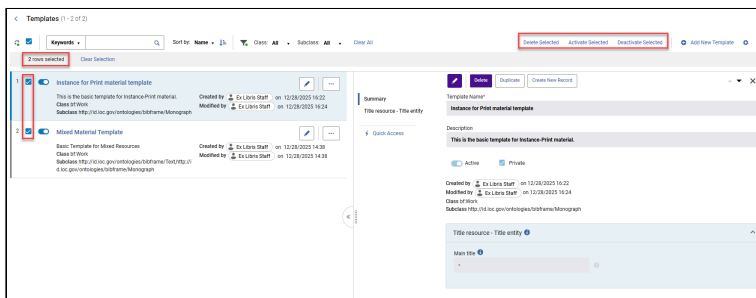
テンプレートを一括で削除／有効化／非アクティブ化する方法：

1. 関連するプロファイルを選択します。一括アクションが有効になります。
2. 選択したテンプレートを削除する／選択したテンプレートを有効化する／選択したテンプレートを非アクティブ化するのいずれかを選択してください。一括アクションが適用されます。
 - 選択したテンプレートを削除する — 確認メッセージが表示され、選択したテンプレートが削除されます。現在の削除権限がチェックされます（単発テンプレートが削除された場合と同様）。

Note

設定不要ですぐに使えるテンプレートが削除対象としてマークされている場合、そのテンプレートは削除されず、次のようなメッセージレポートが表示されます：選択した2つの資料のうち、1つに対してアクションが完了しました。

- 選択したテンプレートを有効化する — これにより、非アクティブなテンプレートのステータスが有効に変更されます。有効なテンプレートは有効なまま維持されます。
- 選択したテンプレートを非アクティブ化する — これにより、非アクティブなテンプレートのステータスが非アクティブに変更されます。非アクティブなテンプレートは、非アクティブのまま維持されます。



テンプレートフィールドファセット：有効／非アクティブおよび公開／非公開

テンプレートフィールドは、以下のファセットとして利用できます：

ステータス：

- 全て
- 有効
- 無効

検索範囲：

- すべて（すべてのテンプレートを表示できる目録管理者を除き、他のスタッフのプライベートテンプレートは含まれません）
- マイテンプレート
- 出版テンプレート

テンプレートとレコードの独立性

テンプレートは特定のレコードにリンクされていません。代わりに、それは新しいレコードを作成するためのスタートポイントとなる構造として機能します。レコードが作成され、保存されると、それは元となったテンプレートから独立したテンプレートとなります。

後でそのレコードを編集する際、フォームの表示は元のテンプレートではなく、レコード自体の構造に基づいて生成されます。これにより、テンプレートに加えられた変更が既存のレコードに影響しないようにし、整合性を維持しながら、想定外の問題を防止できるようにします。

Alma LODエディタでのレコードの管理

LODエディタ（リンクトオープンデータエディター）は、特定の各ユーザーに対して処理中のレコード（作品とインスタンス）の全作業コピーをリストとして表示します。これには次のものが含まれます：

- 目録担当者によって最近作成され、まだ公開されていないレコード
- レコードは永続検索内で編集されており、まだ公開されていません
- 下書きレコード — 下書き保存アクションが有効化された編集プロセス中のレコード

レコードロック

BIBFRAMEレコードが編集中の場合、他の目録作成者からはロックされます。これにより、他のユーザーが同じレコードを変更したり、変更を上書きすることができなくなります。さらに、ロックされたレコードインポートで上書きしたり、更新ジョブで更新したりすることはできません。

レコードの編集を試みる他のユーザーには、「
によってロックされています」というメッセージが表示されます。

LODエディタを終了する際にレコードを公開または保存してレコードを公開を選択しない場合、レコードはロックされたままとなり、左ペインに表示されます。

どれくらいの時間他のユーザーによるレコードの使用をロックするかを指定するには、**working_copy_lock_timeout**を設定します（詳細は [作業コピーのロック期間](#) を参照）。デフォルトの値は1時間です。

LODエディタで編集したレコードは、公開するか、レコードの**working_copy_lock_timeout**設定が期限切れになり、その後、別のユーザーが編集するまで、左ペインに表示され続けます。レコードの作業が完了したら、必ず**保存してレコードを公開**を選択して公開してください。

LODエディタ - アクション

アクション	説明
レコードを編集する	レコードを編集し、作業コピーを作成し、公開されるまでレコードをユーザーに貸出します。
レコードを保存	リポジトリ内のレコードに加えられた 変更 が保存されますが、レコードは公開されません。レコードを公開するには、 レコード公開オプション を使用してください。
保存し、レコードを公開する	レコードを保存して公開します。レコードを公開すると、LODエディタ左ペインには表示されなくなります。
レコードの解除	変更 を保存せずにレコードを公開します。レコードを公開すると、LODエディタの左ペインには表示されなくなります。
下書きを保存	レコードを 検証ルーチンなし で下書きとして保存する。 変更 は保存されますが、この時点でリポジトリ内では 変更 として更新されません。レコードは貸出されたままであり、LODエディタの左ペインに表示されます。他の 目録 作成者による編集はできません。 30日間 変更 がない場合、下書きレコードは削除されます。
テンプレートとして保存する	レコードの構造を新しいテンプレートとして保存します。特定のレコードの値を含めるか含めないかは 選択 できます。
レコードコンテンツを含むテンプレートを保存する	ユーザーがテンプレートを使用してレコードを作成できるようにします。
別の 目録 作成者の解除レコード	このアクションを使用できるのは、 目録 管理者の役割を持つユーザーのみです。これにより、レコードがLODエディタまたはMDEでロックされているかどうかに関係なく、別の 目録 作成者に属するすべてのレコードを公開してロック解除できるようになります。